

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年 5 月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】米中貿易摩擦の影響が顕在化

- 製造業は、主要産業の鉱工業生産指数では、化学工業が大幅に上昇したものの、はん用機械やプラスチック製品等、多くの産業で低下が目立った。輸送用機械を中心に比較的好調を示すヒアリングも聞かれた一方で、幅広い産業で、米中貿易摩擦による悪影響を不安視するヒアリングも聞かれ、先行きの見通せない状況となっている。

【地場産業】厳しい状況が継続している

- 地場産業は、鉱工業生産指数で木材・木製品が前月比で大幅な上昇が見られ、繊維工業等も上昇したが、市場の縮小に加え、原材料費や燃料費が高騰する中での利益確保が課題となっており、依然として厳しい状況にある。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、ヒアリングにおいては、設備投資に積極的な姿勢も見られたが、工作機械受注額については、国内、海外向けとも、前月に引き続き前年を下回っており、米中貿易摩擦の激化で、落ち込みが長期化している状況となっている。

【個人消費】家電大型販売店やドラッグストアが牽引

- 個人消費は、小売店の販売額については、前月に引き続き家電大型販売店やドラッグストアが牽引し、全体としては前年同月を上回った。また、長期連休も売上増加に寄与したとのヒアリングも聞かれた。

【観光】宿泊客数は前年同月を上回ったが、観光客数は下回った

- 観光は、4月には10連休の大型連休があり、宿泊客数は前年同月を上回ったが、天候の影響を受けやすい観光客数は、前年同月を下回った。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、米中貿易摩擦や消費増税による資金需要への影響を注視している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化している

- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中で、県内中小企業にとっては、依然として人手不足が慢性化した状態にある。企業は、設備投資による効率化や待遇改善等、様々な対策を検討している。